

- 1 派遣期日 平成23年10月26日（水）
2 研修先 学校名 仙台市立鹿野小学校
所在地 仙台市太白区鹿野2丁目9番1号
H P <http://www.sendai-c.ed.jp/~kanosho/>

3 研修内容

第28回 東北地区小学校特別活動研究協議会宮城大会

第37回 宮城県小学校特別活動研究協議大会

大会主題 「自他の思いや願いを生かし、共によりよく生きる子どもを育てる特別活動」

（1）研究主題について

周囲に合わせられたり、仲の良い友達と楽しく活動したりできる子どもが多い一方で、本気で話し合えなかったり、意見を交わすことが苦手であるとする子どもも多い。その実態を踏まえ、「自分らしさを発揮する子ども」「友達の思いや願いに共感する子ども」「貢献の心地よさを感じる子ども」という子ども像の実現を目指す。

「自他の思いや願いを生かす」とは、自分たちの学級・学校生活をよりよくしたいという自分の思いや願いをもち、それを話合いの場で伝え合い、考えを練り合い、具体的な活動をしていこうとすることである。そして子どもたちは集団活動の中で、他者から認められたと実感し肯定感や自己有用感を感じることで、他者の思いや願い、相手のよさも共感的に認められるようになる。共によりよく生きる子どもやその集団を成長させていくために、自他の思いや願いを生かすことは、必要不可欠である。みんながよりよい学級・学校生活を過ごすことができるようにそれぞれが願いをもって生活し、その実現のために活動しようとするのが、豊かな人間性や社会性を育むことにつながると構想している。

（2）主題に迫るための手立て

- ア 視点1：自分らしさを発揮させる指導方法の工夫
話型の指導・学級会コーナーの活用・学級会ノートの活用・場の設定の工夫
イ 視点2：友達の思いや願いに共感させる指導方法の工夫
話合いマニュアルの活用・司会団への指導・支援・学級会コーナーの活用・板書の工夫（板書の構造化・話合いの可視化）
ウ 視点3：貢献の心地よさを感じさせる指導方法の工夫
振り返りの時間の確保・振り返りカードの活用・振り返り活動の工夫（学級だよりの活用、伝え合い活動等）

（3）公開授業参観

① 参観授業

5年2組学級活動「5－2をパワーアップする作戦を決めよう」（前川豊明教諭）

② 指導の構想

- ・自分たちの学級のよい点をしっかりと確認し、それを生かしながら、よりよい学級集団に成長するための作戦づくりを行う。
- ・マイナスの行動を直していくという思考ではなく、よさを生かして成長したい点をカバーし、よい方向へ伸ばしていくというプラス思考で行うことがポイントである。
- ・振り返りの時間を長めに設定し、作戦を成功させるために自分が行う具体的な行動内容をまとめられるようにする。

④ 授業の様子

話合い活動の実践ということで、授業隊形はコの字形であった。司会団である4名が前に出て、司会・黒板書記・ノート書記を分担して行っていた。

主題に迫るための手立てとして「話し合いマニュアルの活用」が挙げられていたように、子ども達には話し合いへの抵抗感は全くなく、話し合いの積み重ねの意義が感じられた。司会団が入念にシミュレートをし、堂々と会を進行させていく姿も素晴らしかった。それ以上に、周囲の生徒が自ら進んで意見を発表し、友達の意見をつないでいくための発言を積極的にしている姿に感心させられた。中でも、「5-2をパワーアップさせる」という共通の目標を実現するために3つのアイデアが出され、それぞれの善し悪しを議論する中で、「新しいことをすることで、5-2のよさである『自由を認め合う』が消えてしまっただけは意味がないと思います。」という発言をした児童がいた。この発言によって、それまで停滞していた話し合いが結論に向かって再び動き出すことが出来た。その場の状況を判断した適切な発言をする能力が育まれていることを明示する発言だったように思う。

また、板書が構造的になされており、話し合いの議題・提案理由・めあてが一目で分かるようになっていた。話し合いの最後には「ナイスコーナー」で良い発言を振り返る機会を設けており、子どもの言葉で会のまとめをすることによって、自分達で創り上げる話し合いを実感しやすい板書の工夫が感じられた。

(4) 杉田洋氏の講演から

〈講師〉杉田 洋（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官）

〈演題〉共生社会の担い手を育成する特別活動 ―効果的効率的指導と評価を通して―

①特別活動について

- ・「生きる力(人間力)」＝学んだ知識や技能、価値観などを活用しながら実生活や実社会をよりよく生きていく力。
- ・昨今の日本の人づくりの課題は「よりよい人間関係」「社会参画」「自尊・自律（わがままではない自信）」の三点の力が身に付いていないことである。共生社会の担い手としての資質・能力の低下が見られる。

↓

「特別活動で目指したいよりよい学級や学校の生活づくりのイメージ」}これを共有する
「最低限身に付けさせたい話し合いの仕方」}必要がある

- ・道徳教育＝「幸せ」とは何かを考える。

特別活動＝「幸せ」になるためにはどうしたらいいかを考えて実行する。

果たして、実践や体験活動が子どもたちのためになっているかを考えるべきである。

②話し合い活動について

- ・話し合いの計画を子どもが作れることが本当の意味である。子どもの中から出てくる課題を見極め、議題が熟すまで待つ。そうすることによって、子ども自身の言葉で話し合いが出来るようになる。
- ・話し合いがやりっぱなしになっていないか。振り返りはできているか。多くの場合、特別活動の話し合いでの態度が課題となっているが、話し合いを通して結論を出すことが特別活動での話し合い活動の意味である。
- ・話し合いは精神論では意味がない。「誰のために、何のためにやるのか」を考え、実行するための手立てを考える場である。
- ・徹底的に話し合いの仕方を教えることが、第一に大切なことである。話し合いの実践の中で、他者を気遣い、他者の考えに折り合いをつけることを学んでいくのである。

4 感想

特別活動教育に携わりながら、自分がいかに特別活動を理解していなかったかを痛感させられた研修となった。今回の大会への参加を通して、「特別活動は何のために行うのか」という問いの答えを受け取ることができたように思う。話し合い活動はやはり積み重ねこそ必要であり、一朝一夕に話し合い活動ができるわけではない。他者とともに、よりよく共生していく生徒の育成のために、話し合い活動の場でルールを知る意義は大きい。学校という一つの社会で共通した話し合いのマニュアルを活用し、学校全体が共に生きる教育ができるよう模索していきたい。